

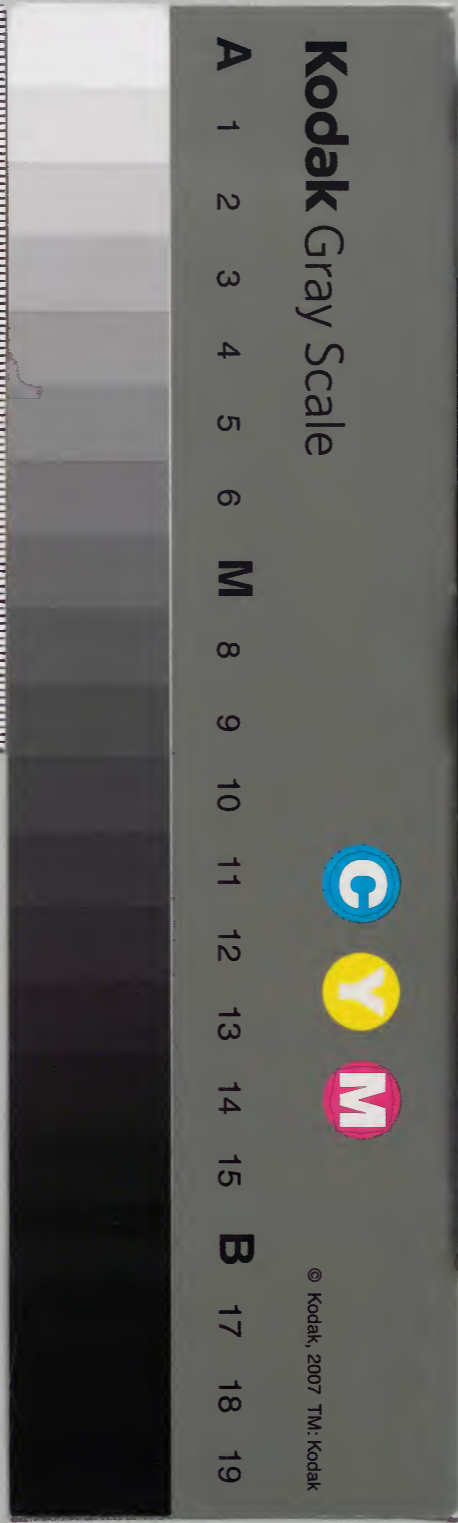
新撰六帖題和歌

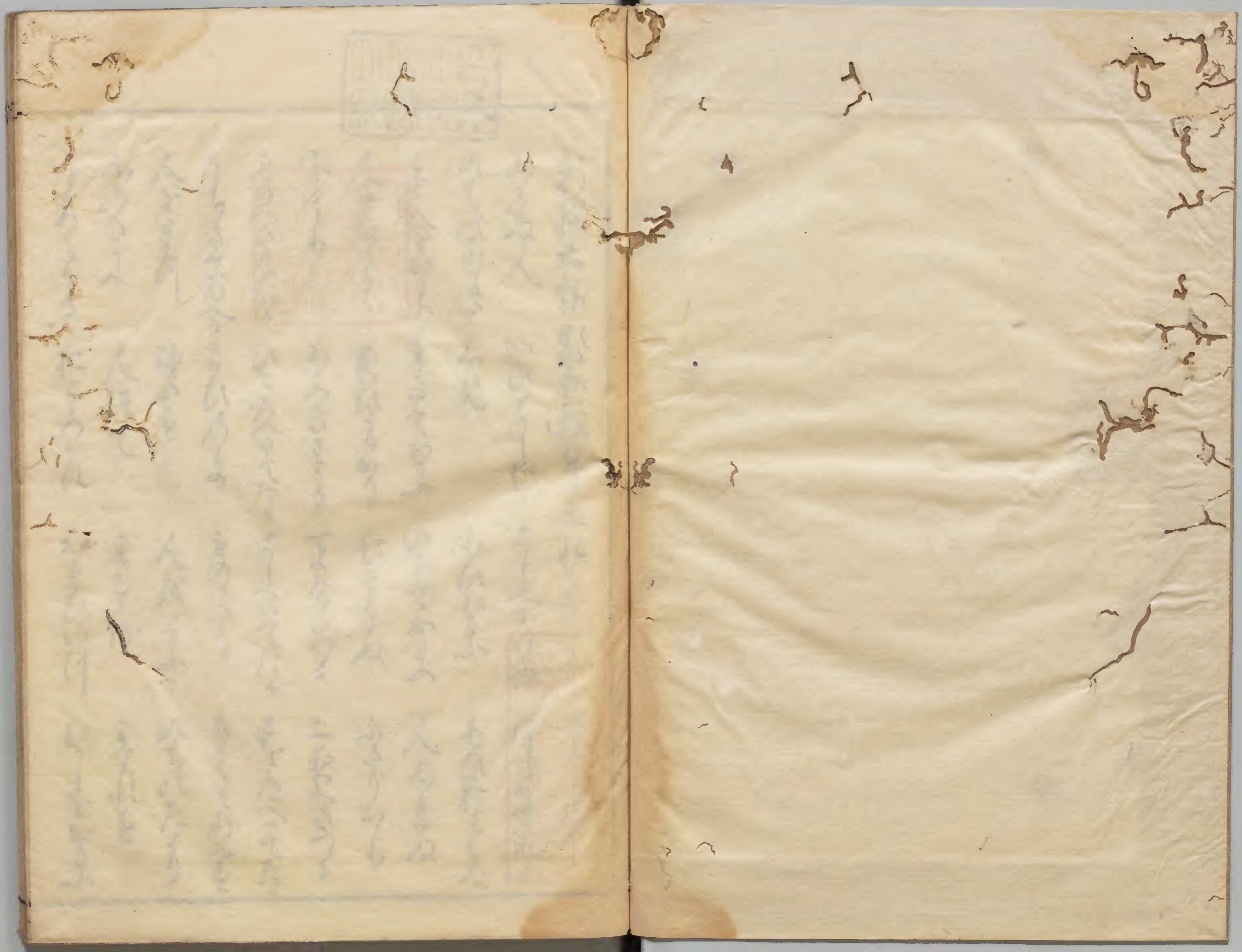
第五帖

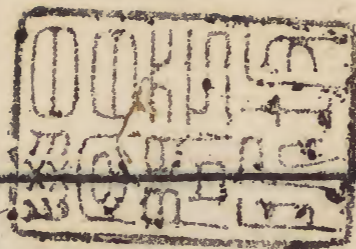
			四	和
		一	二	書
	八	二	又	門
五	九	一		類
冊	架	函	號	

庫文閣内				
二		四		和
一		二		書
二	五	一		類
架	冊	號		

内閣文庫		
番號	和	42421
冊數	5	(4)
函號	201	767







新撰六帖題和歌第五帖

あふぬ人 いひさむむ

のらぬあし 本気 あひおま あひおま

こを人をおま 多さそおま いまそおま 人あまぬ

人あまぬ 兼ひさりあう むさりぬ あさりあう

ふさむ あらそま 一よるこつろ 二あまこつろ

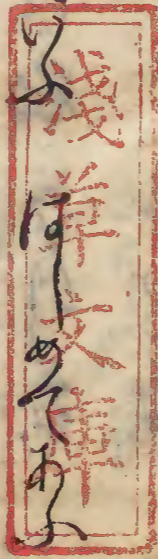
あまのさる ひとあまのさる ひとあまのさる

うらまそあふまひ乃ま 多のこつろ ちうてあふま

人あまの 人あまの 人あまの みるれたより

あまのさ 人あまの ひとあまの みるれま

うらまそあふま ねさるま ねさるま びうそあま



むしあえ入 ありふり ちきほ 人をたつぬ
 めつろー たのひさ ちきほ くらふじ
 人つま 家よりさふ たまひやと おひひらふ
 くれとあはと 人をさむ とくほら 人をあむ
 ねーまき なれたる わきもこ わのせ
 かり一ま 二たさかひひとくひや せんせ
 うんえん ちきほき たまうろく かん
 ちとゆひ くらふじ ぬまふ ぶ乃を
 たまうまいた くらみ ぼくら ぼまらう
 こころ入 こころも ちきほさ夜 かけ夜
 あきこころも 夜うけ くら夜 ちきほ夜

あきこころも くら夜 くら夜 くら夜
 あきほ ちきほ ひも ねん
 ひらう おとれん あん こと
 あん ゆみ や たち
 こころ さや くら夜 あふさ
 かき 見の くら夜 くら夜
 いろ くら夜 ひらさた くら夜
 えんち おしき あや いと
 くら夜 ぬの

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

あまぬ人

前内大臣

城ユまよひらひられぬ本橋あしとくやもきよみん

あまの御言

あまの御言のまゝにいひかへしんまゝあまの御言

入道三位

あまの御言のまゝにいひかへしんまゝあまの御言

前左京大夫

あまの御言のまゝにいひかへしんまゝあまの御言

入道左大臣

あまの御言のまゝにいひかへしんまゝあまの御言

あまの御言のまゝにいひかへしんまゝあまの御言

たえぬるをちりてんさるるなるぬあまらや今も人をさるる
れちひひひ

今世より世ひあつていづれの世にまよふ人らあつていづれにまよ

ふまよふをいふ世にまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつて

いづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよ

ふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつ

ていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにま

よふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

まよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあ

つていづれにまよふ人らあつていづれにまよふ人らあつていづれに

あつちの世はさきうあつちのうらなひとて思はせぬの心
心算もとらへてうらなひのたきよはひのり
いさゆは人衆中をいひとせんこゝろをみよこゝろれ

あつち

なほうれ人の樂りも中へいさへある世とたのむ計を
いさやうにうらなひをいさへあつちのうらなひも
たふまへよあつちのうらなひをいさへあつちのうらなひ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ

人をたつぬ

まはる世のうらなひも結果よくあるをえやみん

貴くり思ひのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ

あつち

あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ
あつちのうらなひをいさへあつちのうらなひをいさへ

たつち

たふらふもいふにやうなれうとやうきもむいふ人たふあ
またな

かゝる人のはらふは源乃とゆはとたふとわたり

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

心よきうもぬきさうの暮かろ強うま後うつまうわも
かの夜

久くは柳橋のう衣なら帰らうひじうさうらふ
ねされうひ野の色の小幸成のう衣せよまかひんわこめん
しう衣のくろ野心乃志こまにうらうよ露のたまをみさう
草乃糸よ神はくみられのう衣はるる家のまにをむん
ゆきうかうたうの衣いとこひと志のまらけ本振乃せ

とつ夜

すう衣きくぬ日ふしをぬよれをめんまの心せよ
らふておたし一ひのまら夜あされ物ゆさたにぬん
このみよすしあおはしう衣のまにひりまおやう

梅うえれし一ひとれまん衣多ういふわめよろうまら
ゆきまきてまか衣の身よらうましよん今乃秋まら

あさ夜

あさひのららわさ夜みしうまをよと田井にあらわ日は
やうの乃さうあさとせまら夜花のなとれぬまら
ゆきはるらうらうまをれおひいふまらすれあはれ衣の
あつはあつあつまをれ麻衣あしむいふまらさうらじ
我身よひうらまらあさ夜あはゆまも人かうら

な夜

あつはあつあつまをれ麻衣あしむいふまらさうらじ
我身よひうらまらあさ夜あはゆまも人かうら

Handwritten text in a cursive script, possibly a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, with some lines starting with a vertical line. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

28

29

